

## 循環器 内科・外科、協力してやっています!

### 両手利きなので無理のない 丁寧な手術が可能です



高澤部長

当院に着任してから2年が経過しました、心臓血管外科の高澤賢次と申します。大学まで信州で過ごし、卒業後順天堂大学、虎の門病院で心臓外科手術、特に狭心症や心筋梗塞に

対する冠動脈バイパス術に携わってきました。バイパスを縫い合わせた総数は約1000本程です。野球、テニスは左、ゴルフは右、お箸は両手で使えるので手術の時も使いやすい手を使って丁寧な手術を行っています。

この3月に娘が中学に入学し、親子ともども受験勉強から開放され、ほっとしているところです。

### 小さな傷で冠動脈バイパス 手術が可能です

心臓外科に携わって20年程が経ちました。その間さまざまな進歩があり、心臓手術も20年前に比べ成績も向上してきました。特に心臓を動かしたままバイパス手術を行う心拍動下バイパス術や、小さな傷でバイパス手術を行う小切開手術は、身体への負担も少なく手術後の回復も良いことから、今まで手術を行うことが躊躇された高齢者や、大きな病気をもっておられる方にも手術をお勧めできるようになりました。

写真は小切開バイパス術を受けた方のものです。従来はのどの下から30cmほどの傷が残ります

### 高澤 賢次（心臓血管外科部長）

したが、1本バイパスであればみぞおちの上約10cmの切開で手術が可能であり、傷が小さい分回復が早く1週間ほどで退院可能です。最高齢は86歳の方でした。



心臓を止めて手術を行うか心臓を動かしたまま手術を行うかはそれぞれ長所短所があるので患者様の状態を診て判断しています。

### 弁膜症その他多くの 手術を行っています

心臓の弁の病気では人工の弁に交換する弁置換術や、自分の弁を切り取らずに修復する弁形成術を行っています。現在まで自分で執刀させて頂いた方で亡くなった例はありません。

その他の手術としては動脈が太くなる大動脈瘤に対する手術、足の血管が狭くなったり詰まったりする閉塞性動脈硬化症に対する手術、透析の方のシャント造設、足の静脈瘤手術を行っています。静脈瘤の手術については心臓外科の恵木医師が今までに数百例の経験を有しており、術前の超音波検査による詳しい評価を行ない、極力再発をおこさない手術を行っています。

循環器内科のスタッフも充実し、内科・外科が協力し、最善の治療を提供させて頂きたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。



手術中の筆者